

神の光に導かれ、拓かれし千手寺

真言宗大本山 光堂千手寺

所在地：東大阪市東石切町 3-3-16
電話：072-981-2241

平安、南北朝
兵乱で焼失の度、
幾度となく人々に
支えられてきた千手寺。



▲本堂に祀られている千手観音立像

当寺縁起によると、1300年前、笠置山千手窟で修行していた役行者が神光に導かれ当地に至り、千手観音が諸々の神祇を従えて現れた事から、恵日山千手寺を建立。以降、この堂を光堂、里の名を神並村と号した。平安初期、弘法大師が止宿した際、当寺守護の善女竜王が夢に出現し、補陀落山の香木を付与。歓喜した大師は千手観音像を刻し本尊とした。その後、維喬親王の乱（史実不詳）により堂宇ごとごとく兵火にかかり炎上。しかし本尊の千手観音は自ら池に飛び入り、その夜、光を放つ同像を見た在原業平が奉出。これを本尊とし中興したと言い伝えられる。

1992年の本尊千手観音立像（大阪府指定有形文化財）解体修理では、像内部から墨書が発見され、造立は南北朝時代、作は連慶の孫 康俊と判明。頭部に北朝、胎内に南朝の年号が各々記されていた。

美しい夕陽が沈む当地で極楽浄土を願う人々の道場でもあった千手寺。参拝者は今も当地を訪れ安寧を願う。